# 靜子夫人銅像除幕式

以前よりこの洗心誌上に於ても掲載して來た、鹿兒島における靜子夫人の銅像の再建が完了し、去る平成二十八年十一月二十七日に除幕式が靜子夫人の誕生地である鹿兒島市新屋敷町の甲突川左岸で執り行はれた。

當日は生憎雨模様だつたが、「乃木靜子夫人奉贊會」の會員や來賓・關係者等約三〇〇名が集まり、午前九時

三十分より船魂神社宮田昇禰宜を齋主として鹿兒島縣神道青年會の神職の修祓の後、平瀨葉子會長や三反園訓鹿兒島縣知事等により完成した銅像（臺座も含めて高さ二・一メートル）の除幕が行はれ、會場から大きな拍手が送られた。

降神、獻饌、そして降り頻る雨の中朗々と祝詞が奏上された。

その後中村光彩氏により薩摩琵琶「乃木靜子夫人」が銅像

の前で奉納された。靜子夫人の一生を綴つた歌詞と奏者の美しい歌聲が參列者の心に染み入つた。

次に齋主に續き、平瀨會長を始め役員、來賓等が順次玉串を奉り拜禮した。

そして撤饌、昇神、最後に齋主に合せて一同が銅像に向ひ一拜して祭儀が滯りなく終了した。

祭儀終了後、三反園知事より、「この銅像の完成により、多くの人々がこの地を訪れ、當時の狀況に思ひを馳せる場となるやうに心から願つてゐる」との祝辭が述べられた。

その後場所を移し、正午よりホテルパレスイン鹿兒島に於て記念式典が開催された。

先づ、那須乃木神社の渡健二宮司より、「那須の地はこの鹿兒島と大變御緣が深い土地であり、靜子夫人のお導によつて參拜させていただけたことに深く感謝している」との挨拶ののちに乾杯の發聲がなされ、會食、懇談に入つた。

その後仙田流師範仙田賢佐氏により祝儀舞「長唄 鶴龜」が披露され、再び式典に入つた。

小島和彥奉賛會副會長の開會の辭に續き、平瀨葉子會長より「準備から足掛け三年、元あつた新屋敷の地に銅像が再び建つた姿を見て感無量である。銅像は建てて終りではなく、これから先靜子夫人の生き方、關はつた歴史などを繙きながら守つてまゐりたい。」と謝辭が述べられた。

續いて參列の來賓紹介がなされ、代表の來賓より夫々祝辭が述べられた。

先づ山東昭子 參議院議員が「今回の銅像の再建によつて、時代に輝いてゐた乃木靜子といふ女性が、自分の考へをしつかりもつて生きてをられたといふことを、此處

にゐる人も含めて鹿兒島から語り繼いでいく使命がある。」と語られた。

次に保岡興治衆議院議員からの「良妻賢母と讃へられた人柄と功德を顯彰したい」との祝辭が代讀された。

次に靜子夫人の實家である湯地家を代表して、中野湯地會の湯地定郎氏より「私も九十歳を迎へたが、殘りの人生を靜子夫人の考へ方を皆様と共に廣めていきたい。」と挨拶された。

次に最初に靜子夫人の銅像を建立した村野山人・須美子夫妻の孫に當る村野利昭 神戸村野工業高等學校名譽理事長より「鹿兒島で生まれた村野山人は若い頃は苦勞をして、鐵道を通じて實業界で名を立てた。その一方で乃木學習院長の考へ方に非常に信奉して全國に乃木將軍の考へを廣めたいと全國を行脚していたと聞いてゐる。靜子夫人は鹿兒島の出身であるのでよく知つてゐたやうだが、夫人の女性の鑑としての生き様をとても尊敬してゐた。これからも末長く靜子夫人の遺德を顯彰、繼承されていくように祈念している。」と述べられた。

また加藤司郎 東京乃木神社宮司からは「平成二十四年の御祭神が神上がりましてより百年の年に銅像再建の動きが始まり、那須・京都・函館といつた全國各地にある乃木神社が御鎮座百年を迎へた本年に、靜子夫人の生誕の地にこの銅像が復元されたことは大變意義深いものを感じる。これから以後しつかりと像を保存し、特に若い女性や子供達に御神德を傳へていくことが大切だと思ふ。」

と激勵された。

奉贊會の顧問である原口泉 至學館大學教授は「今日の除幕式に參列し、乃木靜子といふ多くの日本人の心の中に生きた、本當に素晴しい、しなやかで優しくて強い女性がいらして、明治の日本は靜子夫人で幕を引いていただいたのだと改めて感じた。この靜子夫人像はこれからずつと私達を見守つて下さつているので、靜子夫人の願はれていた思ひを、鹿兒島を始め日本全國から世界に向けて發信していきたい。」との篤い思ひを述べられた。

そして祭典を奉仕した鹿兒島縣神道青年會の茶木俊介會長より「鹿兒島縣神道青年會では、歴代の會長が鄕土の偉人の遺德を顯彰し慰靈の誠を捧げてきた。この活動は花のある事業ではなく、地道な活動ではあるが、本日のこの銅像除幕式は共に活動して來た我々にとつてとても誇らしい限りである。」と感慨深い言葉が述べられた。

その後、久野潤 大阪國際大學講師により「乃木靜子 聖將を支へた生涯」と題して記念講演が行はれた。パワーポイントを使用した視覺、聽覺に訴へる內容で、列席者も熱心に聞き入つてゐた。

講演終了後、奉贊會理事である村野誠一 神戸市議會議員により萬歲三唱がなされ、川窪宏一 奉贊會副會長の閉式の辭により祝宴の幕が降りた。

祝賀會の各氏の挨拶にもあつたやうに、銅像の復元に盡力された奉贊會會員並びに關係者の方々に敬意を表すると共に、この像を末長く守り、御祭神である靜子命の御神德が次代の人々に語り繼ぎ、受け繼いで行かれることを祈念して止まない。私共中央乃木會としても、この乃木靜子夫人奉贊會と共に神德宣揚に努めてまゐりたいと思ふ。

（事務局長 飯島正弘）

《お詫びと訂正》

前號・一八二號「靜子夫人像 再建による鹿兒島での動き」の文中において、誤つた記載がございましたので、お詫びして訂正致します。

・三十一頁下段十五行目

誤「會長」→ 正「顧問」

・三十七頁下段四行目

誤「加治屋町」→ 正「新屋敷町」